



津別町長 佐藤 多一

大変身ファースト ステージ

町民の皆様、新年明けましておめでとうございます。輝かしい令和2年の新春を穏やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、津別町は昨年の開町100年を経て、今年101年の新たな一歩を踏み出す年を迎えました。1960年をピークに、人口の減少は止むことなく、産声を聞くよりもお悔やみを申し上げる方が多くなっています。人口減少は避けられない現実ですが、そのことを厳粛に受けとめつつも町を創生する事業を進めているところです。

昨年11月にオホーツク管内の町村長の皆さんと四国を視察しました。愛媛県松山市内でこのような看板を



津別町議会議員 鹿中 順一

新たな10年間の まちづくりを推進

新年明けましておめでとうございます。町民の皆様には、輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶びを申し上げます。

昨年の日本経済は、アベノミクスという名の「大胆な金融政策」「機動的な財政政策」「民間投資を喚起する成長戦略」の3本を柱とする経済政策が、2012年12月から拡大され続けていますが、昨年10月に東日本を縦断した台風19号による甚大な被害の影響や、消費増税による個人消費や設備投資の伸び悩みなどを背景に景況感が悪化し、米中貿易摩擦など国内外の下振れリスクは強まっております。外需頼みで回復してきた日本経済にも大きな影響が及ぶ可能性があります。先行きの不透明感が強まっている状況にあります。

そのような政府は、国・地方の

目にしました。

恋し、結婚し、母になったこの街で、おばあちゃんになりたい！

これは、松山市が2000年に「21世紀に残したいことば」を募集する「だから、ことば大募集」で市長賞に選ばれた作品で、偉大な俳人である正岡子規や高浜虚子の故郷として、ことばによるまちづくりが進められています。津別町も人口減少が進む中、選挙のたびに口にする「この町に

住んでよかったと思える町」の意味をあらためて考えさせられ、しばし看板を見続けました。

今年日本でも2回目のオリンピック・パラリンピックが開催されます。そこで活躍した選手たちに贈られる3種類のメダルを納めるケースに、わが町の木材加工会社が製作した作品が選ばれ、町に大きな名誉と自信を与えてくれました。ケースを手にしたメダリストたちが、蒼く美しいケースを仕上げと見つめる様子が目に浮かんできます。

さて、町は今年、大変身する第1ステージに突入します。町民の皆様に見えぬ形のもので登場します。5月連休前には津別農協の



財政支出が13兆2千億円となる経済対策を昨年12月5日に臨時閣議で決定し、民間の支出を加えた事業規模は、26兆円に達するものになり、「今こそアベノミクスを加速し、課題の克服に取り組むべきだ」としていますが、地方経済への影響及び雇用者所得の増加や消費の活性化など景気浮揚に繋がるかは、不透明な状況にあります。

また、日米貿易協定が昨年12月4日の参院本会議で承認され、本年1月1日の発効に向け手続きに入りました。牛肉や豚肉、チーズなど米国产産畜産物の関税率が環太平洋連携協定（TPP）と同じ率に下がること、道内農業への打撃は必至な状況にあります。政府は同日、農業対策の指針となる政策大綱改定案の策定に取り掛かり、本年度補正予算に関連経費約3250億円を計上するとしていますが、道の試算によると、安い米国产産畜産物が入ること、道内の年間生産額が最大371億円減少すると見込んでおります。

政府は、既に1兆円近い対策予算を計上していますが、「強い産地づくり」は道半ばであり、人口減で国内市場が縮小する中、輸出で生き残りを図れる農家はごく一部に過ぎなく、北海道な

ど産地への打撃は深刻であります。こうした現実から目をそらさず、更に丁寧な施策を講じるよう政府に対し強く求めていく必要があります。

さて、令和元年5月に総務省統計局より公表された日本の地域別将来推計人口では、人口規模の小さい市町村ほど人口減少と高齢化の傾向が強まり、全体的な動向において、人口減少がますます進行している現状にあります。本町の人口減少も例外ではなく、依然として深刻な状況であります。地方創生の取り組みは、持続性のある取り組みを息長く続けて行くものであり、一朝一夕に大きな成果が出るものではありません。

本町の人口構造は、国の10年後の姿といわれており、あらゆる施策面で国や道の制度設計待ちではなく、常に住民が安心して暮らし続けるためにはどうあるべきかの視点で、行政を見極めていくことが大切であると考えています。医療と福祉の充実、買い物環境及び移動手段の整備、さらには防災・減災対策は、日常生活の基盤として待ったなしの重要な課題であると受け止めております。

本町には、新技術の取得や商品開発などの経営努力により、難局を乗

新事務所が完成し、すでに発注を終えた新役場複合庁舎も年末までに、その姿の大部分を見せてくれるでしょう。大きな建物が2棟建つことだけでも町の雰囲気は変わります。その後に続く施設も「まちなか再生基本計画」と現在策定中の「市街地総合再生基本計画」により建設されていきます。この町に住み続けるためには、やはり一定の利便性が必要であり、定住や移住を考える上での選択肢の一つになることを願っています。

時代は不確実性を伴う時代となつたとよく言われます。先が見えない、読めない時代ということですが、実は未来が分かっていることは、つまらないことだと思えます。分からないからこそ想像力を働かせ、試行錯誤しながら少しずつ前へ進んでいくものだと思います。ここ数年、様々な取り組みをする町民や移住者の方たちが増えてきました。その人たちは楽しみながら事を進めています。そうした挑戦する人たちを応援したいと思えます。

結びに、今年の干支は「子」ですが、十二支が新たにスタートする年で、ねずみ算という言葉もあるように、子孫繁栄の年と言われています。産声が町のあちこちから聞こえてくることを願いつつ、町民の皆様にとりまして、本年が良い年となりますようご祈念申し上げます。のご挨拶いたします。

り越えてきた木材加工・製造会社があります。再生可能エネルギーの導入が官民連携により取り組まれる他、日本発のオーガニック牛乳生産や農業と漁業を結ぶ網走川流域の会に代表される環境重視の取り組みもあります。また、複数農家による農業法人が設立されるとともに、農業後継者世代による生き残り農業を掛けた頑張りにより遊休農地は出現していません。地方創生は、このような先駆的取り組みと本町の地域資源を生かしたさまざまな施策を選択により集中的に展開し、もう一方で、町民の皆さんが知恵を出し、協力し合い自らの責任と判断によって取り組んで行かなければならない課題であると考えております。

本年4月からは、第6次津別町総合計画に基づく新たな10年間のまちづくりが進められます。計画の策定にあたっては、積極的に議員提案を行い、計画が着実に実行されていくよう、議会としての機能を十分に発揮して参る所存であります。

今後も、町民の皆様の声が町政に反映され、豊かな暮らしが実感できるまちづくりを進めていくため、議会として責任と役割を果たしていく所存でありますので、なお一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。結びになりますが、本年が明るく希望の持てる一年となりますとともに、皆様方のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げます。年頭のごあいさついたします。